

令和7年度自己評価報告書

世田谷区立芦花中学校

校長 風間 浩也

1 本校の目標及び計画

○ 教育目標

心身ともに健康で、自立した社会人の育成をめざし、次の目標を設定する。

一、自ら考え、向上しようとする人

一、責任感と思いやりのある人

一、健康でねばり強い人

○ 重点目標

・問題の解決に向けた学びへの意欲をもち、計画的に追究し、筋道を立て考え、表現する力を育成する。 ★問題発見・問題解決力（主体性）

・向上心をもって主体的に取り組み、自己理解を深めながら自己肯定感、自己有用感を高めるとともに、多様な個性や自他を尊重し互いに認め合いながら人間関係を形成する力を育成する。 ★人間関係形成力（コミュニケーション能力）

・健全な生活習慣を身に付け、健康で安全に生活するとともに、創意工夫しながら、ものごとを最後までやり抜く力を育成する。 ★豊かな人間性、体力（実践力）

○ 教育目標達成のための基本方針

令和7年度の重点目標

1 各教科等において、主体的・対話的で深い学び及び「せたがや探究的な学び」の実現に向け、問題解決・探究等学習過程を工夫した授業改善を推進し、知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力等についてバランスを重視して育む。

2 地域等の教育資源及びキャリア・パスポートを活用した系統的なキャリア教育を推進することにより、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に必要な資質・能力の育成を図る。

3 英語、数学における少人数授業や、各教科等を通じたタブレット端末等ICTの効果的な活用、学校図書館の活用などの工夫、学びを支える人材を活用した補習等を通して、生徒の個々の学習状況に応じた「個別最適な学び」及び探究的な学習や体験活動を通じた「協働的な学び」の充実を図る。

4 教育活動全体を通して、人間尊重の精神を基盤とした人権教育を推進し、生きる喜びと生命の大切さを実感させるとともに、個性や能力、発達特性等の多様性を認め合い、共に学び、共に育つインクルーシブ教育を推進する。

5 生徒の自主的・自治的活動を推進し、目標に向かって、自己の役割を自覚し、集団における協働を大切にした教育活動の充実を図ることを通して、非認知能力の育成を図る。

6 いじめや様々な問題行動等の未然防止、早期解決を図るとともに、不登校、集団への不適応等様々な配慮を必要とする生徒の社会的自立を目指し、多様な学びの機会を提供するなど必要な支援をするため、校内体制を整え、組織的に対応するとともに、関係機関等との連携を図った取組を推進する。

7 学校の教育活動全体を通じて道徳教育を推進するとともに、考え、議論する「特別の教科 道徳」の授業を充実させ、家庭や地域と連携して生徒がよりよく生きるための道徳性の育成を推進する。

8 地域行事への参加や社会体験活動、ボランティア活動の一層の活性化を図る取組を通して、社会の構成員としての自覚や社会をよりよくしようとする気持ちの醸成、他を思いやる心などの育成を推進する。

9 「キャリア・未来デザイン教育」の理念を踏まえ、学び舎内の小学校等と連携した教育活動の充実を通して、幼稚園・小・中学校の11年間を見通した教育を推進する。

10 教育活動全体を通じて、生涯にわたって心身の健康の保持増進と体力の向上を図る資質と能力を育成し、現在及び将来に向かって明るく豊かな生活を営む心と態度を養う

11 目指すべき資質・能力を明確にし、業務の適正化の観点や計画の機能性を高め、カリキュラム・マネジメントの充実を図り、計画の内容について精査し、効果的、効率的な教育計画の作成を推進する。

12 真に必要な授業時数の確保に努めるとともに、指導体制の整備状況を踏まえて精査し、教師が人間性や創造性を高め、子どもたちに向き合い効果的な教育活動ができるようにする。

2 重点目標の評価

1 「学びへの意欲、表現力の育成」について

関連する評価項目(生徒評価)

①	先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている。肯定89ポイント
②	あなたは、話し合い等で自分の考えを自分の言葉できちんと伝えることができますか。肯定85ポイント
③	授業では考えたり話合ったり、発表しあったりする機会がある。肯定94ポイント
④	あなたは、学習面での課題について、自ら計画的に追求したり、筋道を立てて考えたりして解決していますか。肯定73ポイント
④	私は、家庭で宿題やeラーニングなどで学習をしている。肯定72ポイント

質問①～③の結果から、本校での学習指導において、授業におけるICT機器の活用や考えを深める活動及び、対話的な活動が昨年度に比べ、より活発に行われていることがわかる。これは学習指導要領の施行に伴った、先生方の授業改善が充実期を迎え、ツールの1つとして普段から積極的に活用されていることの表れであると捉えることができる。質問④⑤は生徒の学習への取り組みに向かう姿勢を表している。自身の学習への取組については肯定的な評価はそれほど高くない。④については、昨年度と変わらず、自ら学ぼうとする姿勢の育成、計画的な家庭学習への取り組ませ方や工夫が今後の課題となる。⑤については、昨年度比12ポイント向上しており、引き続き生徒が自主的に家庭での学習習慣をつけられるような取り組みを期待している。

2 「生徒の自立や自分らしさづくり、他を思いやることなど」について

関連する評価項目(生徒評価)

①	私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している。肯定92ポイント
②	あなたは、自他を尊重し互いに認め合いながら、人間関係を築いていますか。肯定87ポイント
③	あなたは、自分がみんなの役にたっていると実感したことがありますか。肯定76ポイント

質問①から生徒たちは学校生活について、過ごし方やルールについてしっかりと考えられていることがわかる。9割以上の生徒が考えて行動しているという結果は大変良い傾向であり、落ち着いた学校生活を過ごすことができていることがうかがえる。また、8割以上の生徒が、友人との関係性について良好な関わりをもとうとしていることも望ましい結果である。一方、自分が他の役に立っているかという点での肯定的評価が、昨年度は一昨年度に比べ7ポイント減少していたが、今年度は5ポイント向上し、やや改善が見られた。自己肯定感、自己有用感を育むような取組や先生方の指導、また、家庭や地域でも自尊感情を高められるよう、働きかけをしていく。

3 「健康で安全な生活と最後までやり抜く力」について

関連する評価項目(生徒評価)

①	あなたは、規則正しい生活習慣を身に付け、健康で安全に生活をしていますか。肯定84ポイント
②	私は、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。肯定80ポイント
③	学校行事は、達成感がある。肯定91ポイント
④	学校生活は、達成感がある。肯定91ポイント

行事等の運営に関しては、ねらいを明確にし、生徒の達成感、自己成就感を高めつつ、生徒の健康安全面の配慮や教員の働き方改革についても留意しつつ、今日的な形へアップデートし、実施している。評価に鑑みると生徒の体力向上の機会や行事への取り組みが充実している。特に行事における達成感は非常に高い数値となり、その教育的効果の高さ、有用性を表している。質問②から質問⑤の肯定的な評価は8割から9割を超えている。一方で、規則正しい生活習慣、健康的な生活に関する評価は、昨年度は一昨年度に比べて9ポイント減少していたが、今年度は9ポイント向上した。引き続き注視する必要がある。正しい生活習慣は、学校生活だけで身につくものではなく、各家庭との連携が鍵となる。スマートフォンやタブレットPCの長時間使用の抑止など、家庭と協力した対策を進めていく。

II 学校関係者等評価アンケート結果について

各項目について、項目内で△肯定的評価(A, B)の高かった項目、▼否定的評価(C, D)の高かった項目を示しました。

〈学習指導について〉

		割合	質問項目
△肯定的評価の高かった項目	生徒	95.9	授業では、考えたことを話し合ったり、発表しあったりする機会がある
▼否定的評価の高かった項目	生徒	9.2	先生は、提出物やテストなどを分かりやすく評価している。

授業において、先生方による一方通行の授業ではなく、「主体的、対話的で深い学び」が定着し、学びあいを進めていく学習指導について生徒が肯定的に捉えていることがわかる。提出物やテストの評価の仕方、板書やプリントの内容や表記を分かりやすいものにしていくことに関しては、今後検討の余地がある。各教科において、引き続き生徒一人ひとりの学習状況を踏まえながら、授業改善に取り組み、主体的・対話的で深い学びの実現を進める。

〈生活指導について〉

		割合(%)	質問項目
△肯定的評価の高かった項目	生徒	91.9	私は、先生が指導した学校での過ごし方やルールについてか んがえこうしている
	保護者	80.4	本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて 子どもが理解している。
▼否定的評価の高かった項目	生徒	20.6	スマホやタブレットの使用時間や使い方について、家庭で決 め、私はそれを守っている。
	保護者	41.2	スマホやタブレットの使用時間や使い方について、家庭で決 め、子どもはそれを守っている。

生徒も保護者も学校での過ごし方やルールについて肯定的な評価が高く、落ち着いた学校生活を送っていると捉えることができる。今後も生徒自身が学校での過ごし方やルールについて、自主的に考えられるような機会を意識的に与えていく。また、今年度初項目である、スマートフォン、タブレットの使用については、守れている生徒が2割という現状は大きな課題であるとともに、生徒と保護者の意識の乖離が倍以上あるということについて、改善していかなければならない点である。

〈学校行事について〉

		割合(%)	質問項目
△肯定的評価の高かった項目	生徒	93.9	学校行事は楽しい。
	保護者	92.0	学校行事は、子どもにとって楽しい。
▼否定的評価の高かった項目	生徒	6.1	先生は、生徒の意欲を大切にしている。
	保護者	7.9	本校は、子どもの意欲を大切にしている。

昨年度に引き続き、学校行事に関する肯定的な数値が非常に高い結果であった。行事における達成感、自己成就感、自己有用感などを高める取り組みを引き続き大切にしていける。一方で、生徒の「意欲」を大切にしていけないと捉える否定的な回答が依然としてあることについて、引き続き生徒の自主的な活動、自主性を尊重した取り組みを工夫していくことで改善を目指す。

〈キャリア教育について〉

		割合(%)	質問項目
△肯定的評価の高かった項目	生徒	78.3	私は、キャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動している。
	保護者	69.8	本校は、子どもの進路や将来のことについて考える授業がある。
▼否定的評価の高かった項目	生徒	20.0	本校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。
	保護者	17.8	本校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。

授業において進路や将来のことについて学習する機会をもつことができた。特に1年生のボランティア活動や2年生の職場体験が生徒にとって貴重な学びの場となっており、昨年度の数値より向上している。特に、保護者の肯定率が高まったことについて、学校からの取組の発信が保護者まで伝わっていると考えることが出来る。一方で、昨年度より数値は改善しているものの、進路についての情報が不足していると考ええる生徒、保護者が一定数いることについては、きめの細かい情報発信を行うなど、改善を目指していく。

〈先生(教職員)について〉

		割合(%)	質問項目
△肯定的評価の高かった項目	生徒	88.5	先生たちは、生徒にいていねいに指導している。
	保護者	85.3	本校は、丁寧に指導している。
▼否定的評価の高かった項目	生徒	13.3	先生たちは、生徒が相談しやすい。
	保護者	13.0	本校は、子どもや保護者が相談しやすい。

昨年度同様、総体的に先生方は生徒にいていねいに指導していることがわかる。昨年度は、「相談のしやすさ」については2割程度の生徒及び保護者が否定的な評価を出していたが、それぞれ7ポイント前後改善していることから、引き続きいねいかつ、相談しやすい指導や関係を目指していく。

〈学校運営について〉

		割合(%)	質問項目
△肯定的評価の高かった項目	保護者	86.8	本校は、保護者に指導の重点を伝えている。
	地域	91.3	学校の重点目標が明確である。
▼否定的評価の高かった項目	保護者	13.3	本校は、保護者に指導の重点を伝えている。
	地域	13.0	地域の意見に対して、学校はいていねいに説明・対応している。

指導の重点について、21ポイント以上の向上があった。引き続き、学校便り、ホームページ、保護者会や行事などの機会に地域や保護者に伝えていく。同時に、保護者も地域も共に「わからない」の回答を減らしていくことが重要である。

〈広報活動・情報提供について〉

		割合(%)	質問項目
△肯定的評価の高かった項目	保護者	89.9	本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している。
	地域	95.7	学校からのお知らせ(学校だより)などにより、学校の様子が分かる。
▼否定的評価の高かった項目	保護者	22.7	「学び舎」の区立(幼稚園)小学校について情報が提供されている。
	地域	21.7	「学び舎」の活動について、情報が提供されている。

学校からの情報提供については、保護者・地域とも肯定的な評価が得られている。日常的に行っている学校だよりの配布とホームページへの掲載、ホームページ上の「新着記事」の更新の成果が表れたと考えられる。「学び舎」に関する情報について、芦花小、八幡山小とも協力し合いながら、引き続き工夫改善をしていく。

〈地域との連携について〉

		割合(%)	質問項目
△肯定的評価の高かった項目	保護者	64.5	本校は、地域の活動などに協力的である。
	地域	78.2	地域の人や施設を教育活動に活かしている。
▼否定的評価の高かった項目	保護者	15.1	本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている。
	地域	26.0	学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている。

生徒が地域活動に参加する機会も増え、活躍する姿も多く見受けられた。地域ボランティアへの参加は、定期考査等、日程を事前に調整し、改善された成果である。次年度も、生徒が参加しやすいよう、地域の団体との日程調整を進めていく。現在、学校が進めている、子ども食堂や児童館との連携を始めとして、今後、さらに地域人材や施設の活用をし、学校と地域の連携を図る。

〈学校の安全性について〉

		割合(%)	質問項目
△肯定的評価の高かった項目	保護者	85.9	本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている。
	地域	91.3	学校は、安全性を高めようと、地域と協力している
▼否定的評価の高かった項目	保護者	8.4	本校は自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している
	地域	8.6	本校は、安全性を高めようと地域と協力している。

学校における安全指導については、保護者・地域からも肯定的な評価で8割以上の高い理解を得られている。避難訓練やセーフティ教室の他、避難所運営訓練も実施し、本校の生徒も参加した。令和8年度は、防災キャンプを計画しているので、これを機に、子どもと保護者に、災害時の対応について理解を深めていきたい。学校の施設面では今年度、次年度と、工事が実施されているため、生徒の安全を第一に考えながら、進めていく。

〈学校全般について〉

		割合(%)	質問項目
△肯定的評価の高かった項目	生徒	90.8	学校生活は、楽しい。
	保護者	87.1	本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。
▼否定的評価の高かった項目	生徒	46.5	「学び舎」の小学校に行ったり、小学生が来たりする機会がある。
	保護者	16.9	子どもは、家庭で宿題やeラーニングなどで学習している。

生徒・保護者とも8割以上の肯定的な評価が得られ、昨年度に比べ、肯定的な回答が生徒はやや減少、保護者はやや増加していることに注視しながら、引き続き、子どもが楽しく通える学校づくりを進めていく。アンケートの回答で「わからない」を選択した地域や保護者の方が一定数おり、学校で行われている教育活動をより多くの方々に知っていただくことが課題として挙げられるため、次年度以降も一層充実した教育活動を進めていく。